

国際英語学部【入学者受け入れの方針】

国際英語学部国際英語学科は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、および学部が定める「教育研究上の目的」に賛同し、また以下に示す知識・技能・意欲・態度などを有しており、それを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

〔知識・技能〕

国際英語学部国際英語学科では、英語学習を中心に、さまざまな国や地域の言語、社会、文化について広く学びます。英語や英語が用いられる国や地域の理解を深めることを目的に、国際学専攻・英語文化圏専攻・国際英語キャリア専攻の各専攻すべてにおいて、将来の目標に合わせ、短期海外研修だけではなく、英語圏での職業体験やセメスター留学、交換留学など、少なくとも一度は海外を経験するカリキュラムを実施しているため、英語が多少苦手でも積極的かつ知的好奇心が旺盛な学生に入学してほしいと考えます。

また、社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する問題意識を持ち、その解決と進展の方法を探るため、広い視野と知識が求められるため、高等学校段階において基本となる教科をしっかりと学習しておくことが極めて大切です。

さらに、言語学、国際関係学、文学および文化研究の諸分野に関する学術用語を理解し、自身の考えを他者に正確に伝えるため、英語力だけではなくプレゼンテーション能力や、ディスカッション能力、そして高い国語力と論理構成力が必須となります。

当然、高等学校課程における「英語 I・II」、「リーディング」、「ライティング」の確実な学習が望まれます。また、入学前の英語運用能力を測るひとつの目安として、実用英語技能検定（英検）2級以上、もしくは TOEIC 500 点以上の取得を目指して学習してください。

授業や留学以外に、学生全員参加の学生主体の行事も重視し、さまざまな学習や研究の成果を広く社会に発信する機会を設けています。これらの行事の実現には、英語能力以外に、調査研究能力、同級生や教員との協調性、学内外の人たちと折衝する社会性や積極性が必要になります。特に、協調性、社会性、積極性は、これからの日本国内のみならず、国際社会でも重要になることから、国際英語学科を志望する学生は素養として是非とも身につけておいてほしいと考えます。

〔意欲・態度〕

国際英語学部国際英語学科では、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めます。

- ・ 主体的かつ自主的に学習する意欲を持っていること。
- ・ 言語習得に高い関心・興味を持っていること。

- ・ 英語圏の言語や文化に関心を持っていること。
- ・ 解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できる言語・文化および歴史の知識と教養を習得する意欲と実行力を持っていること。
- ・ 地域や国内外の社会と連携し、活躍・貢献したいと考えていること。
- ・ 柔軟な思考力、想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。
- ・ 文化や価値観の多様性に関心を持ち、それらについて考察し自分の意見を発信したいと考えていること。

国際英語学部【入学者受け入れの方針】

国際英語学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」、および学部が定める「教育研究上の目的」に賛同し、また以下に示す知識・技能・意欲・態度などを有しており、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。

以上の本学部共通の受け入れ方針に加えて、さらに各学科は、各々の受け入れ方針をもっています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

【国際英語学科】

国際英語学部国際英語学科では、英語学習を中心に、さまざまな国や地域の言語、社会、文化について広く学びます。英語や英語が用いられる国や地域の理解を深めるために、国際英語学科では海外研修・実習それに留学を重視しています。たとえば、1年次と2年次にそれぞれ3週間の短期留学が必修となっており、英語圏での職業体験実習の授業も開設しています。また、セメスター留学や交換留学の制度を利用して長期留学する学生が多いのも本学科の学生の特徴です。このため、英語力が高いに越したことはないのですが、少々英語が苦手でも積極的かつ知的好奇心が旺盛で、真面目な学生が本学科で学ぶと飛躍することができると言えるでしょう。

国際英語学科では、授業や留学以外に、学生全員参加の学生主体の行事も重視しています。たとえば、1～2年生は「学習発表会」、3年生は「研究発表会」を行っており、「学習発表会」は母校の恩師や父母、「研究発表会」は企業の方々を招いて、英語での研究発表をしています。これら行事の実現には、英語力以外に、調査研究能力、同級生や教員との協調性、学内外の人たちと折衝する社会性や積極性が必要になります。特に、協調性、社会性、積極性は、これからの日本のみならず国際社会でも重要になることから、本学科を志望する学生には素養としてぜひとも身につけておいてほしいと考えます。

特に、国際英語学部国際英語学科で飛躍するには、高等学校以前で次のような学習が望まれます。

- ・ 国際英語学部国際英語学科では、英語の4技能の研さんが中心となります。語学は知識というよりも技能であり、習熟するには日々のたゆまぬ研さんが必要であり、そういう意味で、大学入学までに地道に努力を継続する姿勢・態度を十分養うことが望まれます。
- ・ 学術的、あるいは、実務で高度な内容の英語を用いるには、英語以前に思考の基盤となる母語の習得が求められます。受験生のほとんどにとって、母語は日本語であるため、高等学校までの国語やその他の授業を通して言葉への意識を高めておいてほしいと考えます。母語能力（国語力）は、最も汎用性のある基礎学力であり、低い母語能力（国語力）では英語もその他の知識も発展しません。国際英語学科入学後は、アカデミックあるいはジェネラルなトピックでレポート作成やプレゼンテーション、ディスカッションなどが課せられますが、自分自身の考えを正確に伝えなければならない時、思考の基盤である母語能力（国語力）の重要性を痛感するでしょう。

- ・国際化がすすむこれからは、英語力だけでなく、深い教養と専門知識を備えた人材が必要とされます。教養や専門知識の土台となる、歴史、政治、経済、地理、科学、数学、古典等は、高等学校までに教科としてその基礎が教えられています。その意味で、高等学校でのすべての教科はおろそかにできません。英語以外の教科も、将来的に、英語学習につながると考え、十分に学習してください。英語を教養や専門知識と関連付けて用いることができる時、本当に英語ができるようになったと言えるのです。

【英米文化学科】

〔知識・技能〕

英米文化学科での学びは、「社会が必要とする、国際レベルでの異文化間相互理解と交流の課題に対する問題意識を持ち、その解決と進展の方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。このため、高等学校段階において基本となる教科をしっかりと学習しておくことが極めて大切です。

特に、英米文化学科の教育課程を通じた学びと関連し、高等学校段階においては次のような学習をすすめておくことが望まれます。

- ・英米文化学科での学びは、言語学、歴史学、文学及び文化研究の諸分野に関する学術用語を理解しなければなりません。また、大学での学びを深めるためには、アカデミックなレポート作成やプレゼンテーション、ディスカッションなどを通じて自身の考えを他者に正確に、伝える必要があります。そのためには、学部専門科目である英語力以前に、まず高い国語力と論理構成力が必須となります。
- ・国際化がすすむ現在、高い教養を備えたゼネラリストとして、また高度専門職業人として活躍するためには英語をはじめとする外国語の運用能力が欠かせません。本学科では「オーラル・コミュニケーション」や「ベーシック・イングリッシュ・スキルズ」などの科目を開設し、その能力向上を図ります。その基礎として、高等学校課程における「英語Ⅰ・Ⅱ」、「リーディング」、「ライティング」の確実な学習が望まれます。また、入学前の英語運用能力を図るひとつの目安として、実用英語技能検定(英検)2級以上、もしくは国連英検 C 級以上の取得などが考えられます。
- ・本学科では英米をはじめとした英語圏言語文化研究の基礎を担う言語基礎及び文化基礎科目群と、その応用分野につながる言語文化研究科目群とを扱ってゆきます。いずれも国語・社会・外国語などの文系科目の知識が不可欠ですが、特に歴史的・地理的な知識と素養が欠かせません。高等学校課程における「世界史」、「地理」、「公民」、「倫理」の学習が望まれます。

〔意欲・態度〕

英米文化学科は、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めます。

- ・主体的かつ自主的に学習する意欲を持っていること。
- ・英語圏の言語や文化に関心を持っていること。

- ・解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できる言語文化および歴史の知識と教養を習得する意欲と実行力を持っていること。
- ・地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
- ・柔軟な思考力、創造力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。
- ・文化や価値観の多様性に関心を持ち、それらについて考察し自分の意見を発信したいと考えていること。